シャインマスカットの価格下落を振り返る

主事研究員　吉井　薫

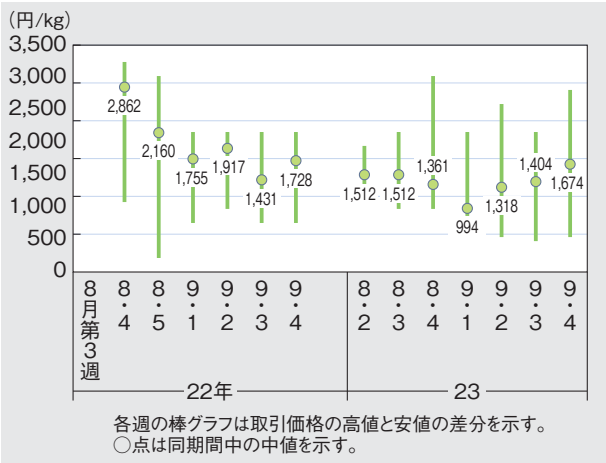
1　シャインマスカットの価格急変

2023年８月下旬、シャインマスカットの価格低迷がメディアでも注目された。東京都中央卸売市場では、８月第四週のキロ単価中値は1,361円、翌９月第一週では994円となり、前年同期の2,862円、1,755円と比較してそれぞれ－52.5％、－54.0％と大きく下落した（第１図）。下落の直接の要因は流通量の増大であったが、この要因について改めて整理したい。

2　シャインマスカットの特徴

シャインマスカットは、2006年に（独）農業技術総合研究機構果樹研究所によって品種登録され、07年から苗木販売が開始された品種である。欧州種系ブドウの特性であるマスカット香や食感に優れ、皮ごと食べられる性質を備える。食味の良さに加え、手軽に食べられるため人気が高い。また栽培面においても、薄い皮でも裂果が少ない、耐病性に優れる、短梢栽培であり剪定、枝管理などを省力化しやすいという特性も持つ。加えて、棚持ちの良さから比較的長い期間流通に乗せることができ、輸出向けの主力を担うなど、近年の日本のブドウ生産を支える品種となっている。

第1図　品目別の価格推移（シャインマスカット）



資料　東京都中央卸売市場「週間市況」

3　栽培面積増で供給量拡大

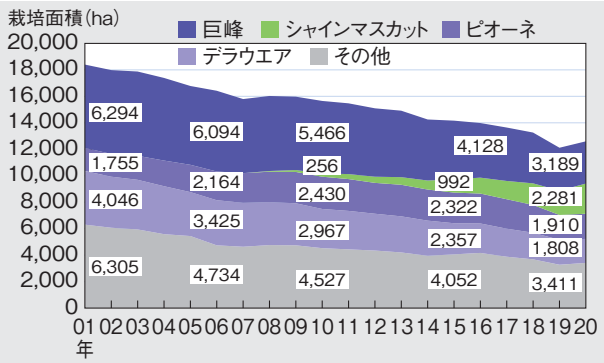
担い手不足を主因として、日本におけるブドウの栽培面積・生産量は減少傾向にあるが、人気の高い品種は改植を経てその栽培面積を増やしつつある。特にシャインマスカットはその傾向が著しく、2010年時点での栽培面積は256 haであったのに対し、20年には2,281haと10倍近く伸張した（第２図）。ブドウ全体の栽培面積に占める割合においても同様である。例えば、1980年では35％と最も比率が高かったアメリカ種系統のデラウェアは、20年では15％にまで減少したのに対し、シャインマスカットは18％を占めるまでに増加している。

一般的に、ブドウは苗木を定植してから２、３年目あたりから実を付け始め、生育が進むにつれて徐々に収量が安定し、７、８年後に成木化する。2010年以降に植えられた苗木の生育が進むにつれて、シャインマスカットの生産量はもともと増加基調にあった。これを受けて、国内市場に出回る量も年々増加しつつあったことに加えて、23年は天候に恵まれたことから、今夏の流通量はさらに増大することとなった。出荷ピークである９月時点で、東京都中央卸売市場全体の取扱量は前年同月比20.4％増であった（第３図）。

4　輸出大幅減で需給バランス崩壊

22年における生鮮ぶどうの輸出量は2,027ト

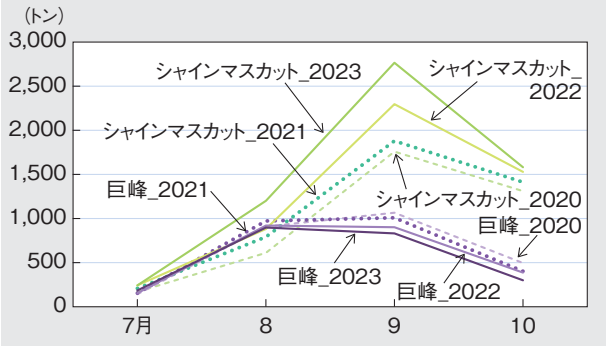
第2図　栽培面積の品種別動向



資料　農林水産省「特産果樹生産動態等調査」

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/

第3図　東京都中央卸売市場 月次取扱量の推移



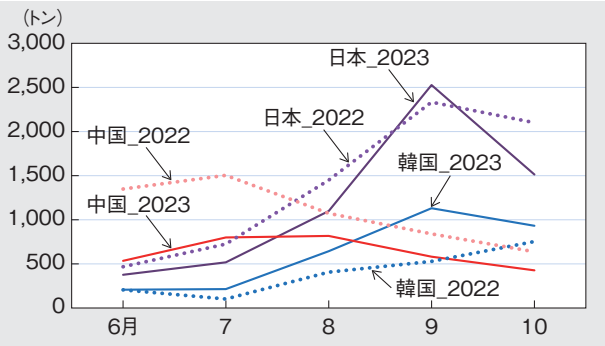
資料　東京都中央卸売市場「月次市況」

ンであり、12年度対比の13.3倍、輸出金額は53.9億円と同じく5.6 倍と伸張した。特にシャインマスカットは、食味や見た目などの高品質性に加え、日本企業による海外での販促活動等が効を奏し、贈答用の需要を中心に輸出拡大を牽引している。しかし近年、価格帯の安い韓国産ブドウや中国産ブドウとの競合が激しくなり、さらなる効果的なマーケティング展開が求められている。

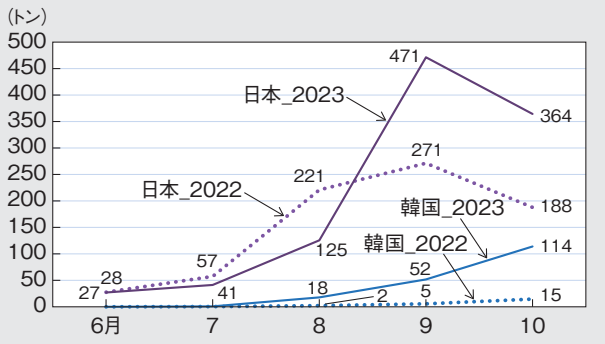
2023年８月では、香港・台湾向けの輸出が大きく下落することとなった。貿易統計によると、生鮮ブドウの香港向け輸出は前年同期比－31.0％、台湾向けでは同－34.3％となり、大きく減退した(第４図)。これにはいくつかの要因が関わっていると推察される。８月24日から東京電力福島第一原子力発電所の処理水海洋放出が実施されたことを受けて、中国政府が日本産の海産物輸入を全面的に禁輸したことに追随し、香港でも10都県産の水産物の輸入を禁止した。もともと香港政府は福島第一原発事故に伴い、日本の福島県を含めた東北・関東地方５県から輸出される食品に対して放射性物質検査証明書の提出などを求めており、今回はこれがさらに強化された形となった。加えて、貨物の集中、添付書類の記載内容不備などから通関手続に時間を要するケースも発生し、これらが合わさり輸出を滞らせる複合的な要因となったものと考えられる。台湾は、輸入禁止などの措置は取らなかったものの、８月の輸入量は前年同期と比較すると減少しており、これは消費者による買い控えが影響したものと推察される。日本における８月のシャインマスカットの価格下落は、もともと生産量が増加基調にあったなか、これら輸出に振り向けられなかったブドウが

第4図　香港・台湾の生鮮ブドウ輸入量の月次推移

香港(日本・韓国・中国からの輸入を抜粋)



台湾(日本・韓国からの輸入を抜粋)



資料　台湾・香港それぞれの政府機関の統計

国内に流入し、需給バランスがさらに崩れたためと考えられる。なお、９月以降、香港、台湾の双方において日本からのブドウ輸入量は回復している。

5　今後の影響

輸出変動による影響は落ち着きを見せたものの、シャインマスカット生産量の増加は今後も続くと考えられる。高単価で販売することを前提に生産していた経営先も多く、増えた供給量を今後どのように処理するのかは大きな課題となる。加工品など消費形態のバリエーションを増やす、多様な輸出先を確保し、貿易条件が変動するリスクを緩和するなど、対応策を考える必要があるだろう。

＜主な参考資料＞

・東京都中央卸売市場「週間市況」「月次市況」
・“Statistics Database Query”, Department of Statistics (Taiwan (R.O.C.))
・“Merchandise Trade”, Census and Statistics Department (The Government of the Hong Kong Special Administration Region)
・農林水産省「特産果樹生産動態等調査」

（よしい　かおる）